学校だより　恵那市立岩邑中学校
温故知新
学校の教育目標
確かな学力　豊かな心　逞しい体
令和５年８月２８日

青い季節は思ったより短い

校長　片桐宣伸

１学期の終業式の話の中で、「青い夏は思ったより短い。ゴロゴロしている場合ではない!!」という話をしました。同時に、夏休みには「しなくてはいけないこと」「してはいけないこと」「したいこと」があり、「しなくてはいけないこと」「してはいけないこと」の量は減らすことはできないが、「したいこと」の量を増やせば充実した夏休みが待っていることも熱弁しました。さて、子どもたちは、どんな「青い夏」を過ごしたのでしょうか。

先日、PTA 親子環境整備作業に、たくさんの生徒たちと保護者の皆さんが参加してくださいました。伸び放題であった校庭の草木が、みるみるうちに整えられていきます。「たくさんの人の手」の力に驚かされるのです。実は、私がこの夏に「したいこと」の１つが、学校周辺の環境整備でした。刈払機とヘッジトリマーの点検整備をし、毎日少しずつ草刈りと生垣の剪定を行いましたが、１人の力では一向に進みません。それ以上に、草木たちは刈られたそばから、新しい枝葉を伸ばし成長しようとすることに気付かされます。その「生きよう」とする力に、またまた驚かされるのです。驚きや感動がたくさんあるのも「夏」のよいところですよね。

そうこうしている間に、学校は２学期のスタートを迎えました。校長１年目の早３分の１が終了したことになります。そう考えると、自分にとって、この１学期間は「充実」には程遠い感じがします。このように繰り返しの１年間を過ごしている大人ですら、振り返れば時間はあっという間に時間は過ぎていくのだから、子どもたちの「青い季節」は、あっという間に過ぎていってしまうに違いありません。

交通事故に遭った人が、周りが「スローモーションのように見えた」と話すことを聞いたことがあります。千葉大学の研究チームによる最新の研究成果では、怒りや驚きなど、感情が喚起されると、視覚が短時間に処理できる能力（時間精度）が上がることがわかったそうです。つまり、「スローモーションのように見える」のは本当だったのです。しかも、それは危険を感じたときだけではなく、喜びの感情でも同じことが起きるのだそうです。

９月は体育祭があります。体育祭も、大人になったら味わえない「青い季節」だからこその経験です。生徒のみんなには、第Ⅱ期【絆づくり】の集大成として、その輝く瞬間が「スローモーションのように見える」体育祭にしてくれることを期待しています。